

農業を通じて
社会に貢献！

農業×福祉

「農福連携」って知っていますか？

農福連携とは、農業分野で障がい者の方々が働く取り組みです。そこにはどんな意義があるのか、実際の現場の事例も交えて、レポートします。

農福連携 Q&A

農福連携の目的や具体的な取り組み、今後の展望などを、農家や福祉事業所と共に農福連携を推進している福岡市農林水産局に直撃取材！

農家の皆さんの参加をお待ちしております！

福岡市
農林水産局
総務農林部課長
松本 信一さん



農福連携の
目的について
教えてください

A 福岡市では令和2年度から農福連携の取り組みを推進しています。

農福連携とは、障がい者の方々が農業分野で活躍することを通じて、自信や生きがいをもって社会参画を実現していく取り組みであり、担い手不足や高齢化が進む農業分野で

農家にとって
農福連携の
メリットとは？

A まずは人手不足の解消が挙げられます。

もちろん、障がい者の方にお仕事を依頼する際には、いろいろと配慮しなくてはいいけないことが出てきますが、実は



早良区のケール畑では、福祉事業所の利用者の皆さんが楽しく働いています。

現在の課題や
今後の展望について
教えてください

A 令和2年度に、農福連携推進事業を立ち上げ、おかげさまで福岡市農林業総合計画で掲げていた目標件数は達成することができました。

農福連携をさらに広げるため、まずはこの取り組みについて、広く知っていただきたいと思っています。何よりも、農家の皆さんに、これがどういう取組みなのか、どういう意義があるのかをご理解いただかなくてはなりませんし、安心して障がい者の方々が従事していただけるように、福岡市としてもさまざまな機会をとらえて、市内事例や市の取組みを周知していきたいと考えています。



作業の手順をまとめたマニュアル。所要所に写真が入っているので、理解しやすい

それは、障がい者の方に限ったことではなく、相手が健常者であっても必要です。
初めて農業に携わる人が働かやすいように、いろいろと準備する必要があります。日々の業務内容を見直し、改善するきっかけになることもメリットの一つでしょう。

福岡市からは
どんなサポートを
受けられますか？

A 福岡市では、農家さんが農福連携に取り組むためのさまざまな支援をおこなっています。

たとえば、農家さんと福祉事業所のマッチングや、双方が契約を結ぶ際の諸条件の調整などをおこなっています。
また、受け入れてくださる



農家さんの作業に合わせて、障がい者の方が理解しやすいよう、作業マニュアル作りもお手伝いしています。ソフト面の課題がクリアになることで農家さんの負担をできる限り減らすことができます。今後も、農家さんが農福連携に参画しやすい環境を整備していきたいですね。

将来的には、「農福連携」が一つのブランド価値となり、商品開発などにつながっていくことも期待しています。そのために、皆さんのご理解をよろしく願います。

農福連携の輪を広げましょう！

農福連携に関心をもたれた農家、福祉事業所は、ぜひ上記までご連絡ください。福岡市も「福祉事業所職員を対象とした農業研修」「農家と福祉事業所のマッチング支援」などの支援策を用意しています。また、令和7年度からは、農福連携に取り組む事業者に対して必要な機械や資材などの助成も開始します。農業を軸に、障がい者も健常者同様に生き生きと過ごせる、多様性のある社会を実現しましょう！

お問い合わせ先
農林水産局 総務農林部
TEL:092(711)4852

農福連携についてはこちらもチェック！

福岡市のホームページでは、さまざまな支援策や市内の取組み事例などを紹介しております。

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/nosui/inoshishi/life/noufukurenkei.html>



＼ケール栽培でタッグ！／

農福連携の現場の声



福 障がい者の方々も一人の社会人として活躍できる仕事

私たちは、児童を対象とした放課後デイサービスもこなっているのですが、土いじりによって、子どもたちに命の尊さを学んでもらうということに取り組んできました。

その発想を、施設を利用している障がい者の皆さんの就労という分野にも取り込めなにかと考えていた時に、馬場さんと出会ったんです。

こちらでの就労がスタート

したのは令和6年の1月。現在は週1日、1回2時間という枠で、畑の除草やケールの袋詰め、そのケールを飲食店に配達するといったお仕事をさせていただいています。

事業所などクロスドな環境ではなく、自然の中でのびと働けるということ、施設利用者の皆さんにはとても好評です。土いじりは五感を刺激するし、デトックス効果もあるんですね。ここの仕事を積極的に希望する方も少なくありませんよ。

飲食店へケールを配達するお仕事も、対人コミュニケーション



ン能力を磨くうえで、とても効果的です。お店の人にケールについてお褒めの言葉をいただく、施設利用者の皆さんも嬉しいし、ご自身もそのケールの栽培に携わっているの、達成感を味わうことができます。

「福祉」というフィルターを通さなくても、施設利用者の方々が一人の社会人として、馬場さんや飲食店の方々とつながりを深めることができるのが、こちらでの農福連携の素晴らしいところなんです。

施設利用者の方々のスキルは万端ではありませんが、特化した仕事であれば、十分にその能力を生かすことができます。農業を皮切りにいろいろな産業において、福祉との連携を広げていけるといいですね。その結果、障がい者の皆さんとその産業に携わる方々がウィン・ウィンの関係になることを目標に、これからも取り組んでいきます。

Work Step HUG+

JA 福岡市が取り組む「農福連携」

当JAの子会社、(株)JAファーム福岡では、福岡市企画の農業研修に協力しています。そのなかで、福祉事業所職員の方を数名受け入れ、農業に関する指導をおこなっています。

また、令和6年には当JAの「元岡トマト選果場」で、福岡市がおこなっている農福連携のマッチングを利用し、出荷用段ボールの箱折り作業を福祉事業所に依頼しました。

就労継続支援
B型事業所
Work Step HUG+
永川 憲一さん



農家と障がい者の方々が「ウィン・ウィン」の関係となり、社会への好影響も期待できる農福連携。実際のところ、農家や障がい者の方々はどのような想いを抱いて、この取組みに参画しているのでしょうか？JA福岡市管内で、すでに農福連携に取り組み、着実に実績を積み重ねている農家&福祉事業所の声をお届けします。



農

笑顔で楽しそうに働いてくれることに感謝しています！

障がい者の皆さんに作業を手伝っていただいているケールは、「カリノケール」といって、苦みが少なくサラダにしても食べられます。フリフリの葉っぱも特徴です。8年前から栽培しています。

農福連携の取組みは、福祉事業所の永川さんとの出会いもあり、福岡市のサポートを受けてスタートしました。

やり始めて気づいたのは、最初から完璧を求めてはいけないということです。これは相手が障がい者だからということではなく、健常者に対しても同じです。徐々に慣れていってもらえばいい。そんな、人を雇用するうえで心構えができたのは、私にとって大きなプラスです。

永川さんの施設の利用者の方々は、除草作業一つ取ってみても丁寧です。除草って、重要な作業なんです。一人で農業を営んでいるとなかなか

手が回らない。それやってみてださっているの、本当に助かっています。

皆さん、本当に一生懸命働いてくださるし、「仕事が楽しい」と笑顔で言ってくさいます。そんな言葉を聞くと、この取組みを始めて本当によかったと思います。

私は「農業でワクワクドキドキをお届けします」という理念を掲げて農業をおこなっています。農業を営むことで経済を循環させ、皆さんを笑顔にすることが目標なんです。その前提として、笑顔で楽しそうに農業をやっていることが大事です。だから、施設利用者の皆さんが働きながら見せてくれる笑顔は、私の理念にもピッタリなんです。

将来的には農業で雇用を創出し、地域に貢献したいと考えています。この雇用創出という点でも、農福連携は大きなステップだと思います。

BABA FARM

馬場さんのケールが食べられる定食屋

馬場さんが栽培するケールは、さまざまな飲食店に出荷されています。そのなかの一つが、福岡市内で5店舗を展開している『いっかく食堂』です。九州産の食材を豊富に使ったバラエティ豊かな定食を、おしゃれな空間で楽しむことができます。

いっかく食堂 <https://ikkakusyokudo.com/>



馬場ファーム
馬場 康平さん